



学校だより

10月号

令和5年10月2日発行
埼玉県立けやき特別支援学校
048-601-5531
<http://www.keyaki-sh.spec.ed.jp/>



小学部3年 社会科見学 「店ではたらく人」

小学部3年生の社会科では、「はたらく人とわたしたちの暮らし」について学習をしています。その中の「店ではたらく人」の学習の一環として、9月20日（水）にスーパーマーケットの見学（オンライン）を行いました。場所は、生鮮市場TOPビバモールさいたま新都心店。本校からも見える距離にあるお店です。

今回の見学は、バックヤード（お店の裏側）を中心に行いました。普段、買い物に行くことはあっても、バックヤードの様子を見るのは、ほとんどの子どもたちが初めて。見学当日は、学校と病室からの参加になりましたが、初めて目にする設備やお店の人の仕事ぶりに驚きの表情や声が出ていました。中でも、子どもたちが目を輝かせていたのは鮮魚作業室。ここでは、大きなブリを捌く様子やサーモンの刺身を作る様子を見学させていただきました。家庭で調理しやすいようにお店で捌かれていること、食卓に料理として上がるまでには、様々な人の手が関わっていることを実感できたようです。

バックヤードの見学が一通り終わった後は、子どもたちからのインタビュータイム。商品、お店の人の仕事、売り場に関する事など、様々な質問が出ましたが、丁寧にわかりやすくお店の方に答えていただきました。

スーパーマーケットは、生活に強く結びついていて、子どもたちにとっても身近なものです。これまでは、「お客さん」として店を見るだけであった子どもたち。この学習を通して「お店の人の仕事」「お店の工夫」などにも少し目を向けられるようになり、お店と自分たちの生活との結びつきについても考えられるようになってきました。貴重な見学の場を提供していただき、丁寧に対応して下さったお店の方々、ありがとうございました。



病気療養中の高校生への学習支援

入院中や自宅療養中の高校生に対する学習支援は、小・中学生に比べて実施数が少ないのが現状ですが、コロナ禍の ICT 技術の普及により病気療養中の高校生への学習支援実施数が全国的に増えています。文部科学省もこのような高校生に対する学習支援要件の緩和を進めており、遠隔授業を出席扱いにできることや、授業を録画して生徒が見られるときに授業を見るオンデマンド型学習を推奨しています。支援方法は自治体によって様々ですが、zoom や Google classroom を活用した支援が多いです。

埼玉県では二つの支援を行っています。一つは、小児医療センターに 1 か月以上入院する県立高校生に対し学籍を異動しない学習支援を行っています。5教科の本校の非常勤講師が在籍高校の講師となり、病室で授業を行うことで在籍校の授業を受けたこととなります。また、定期考査も受験しています。実技教科・専門教科は遠隔授業をしたり、課題を提出したりしています。これらの取組を単位認定の判断材料にするかは在籍校の裁量となりますが、これまで全日制（普通科、商業科）、定時制の生徒が支援を受けて進級卒業しています。私立や特別支援学校、他県の高校生に対しても同様の支援を実施しています。もう一つは、小児医療センター以外の県内の病院に入院している県立高校生への学習支援です。高校教育指導課が中心となって高校と病院をつないで学習支援を実施します。



高校生になり長期療養することになった際は、先ずは在籍高校に遠隔授業等の要請をしてください。支援が難しい場合は本校にご相談ください。生徒と御家族が安心して治療に向き合える環境整備のお手伝いをさせていただきます。

10月の行事予定



日	曜日	行事予定
10	火	月曜日課
25	水	文化祭予行
26	木	文化祭前日準備 12:15下校
27	金	文化祭 12:15下校

◎お知らせ

11月号は文化祭の内容を掲載しますので、11月1日(水)ではなく11月10日(金)の発行となります。